

# “スロートーリズム”が観光の原点を呼び戻す?!

## ／ 2004年の旅行動向見通し

### 開催概要

旅行・観光業界向けに、旅行市場の動向分析と新しい志向・潮流の紹介を軸に、当財団が毎年暮れに継続実施しているセミナー。参加者には、前年の旅行市場の動向をまとめた『旅行年報』、観光産業を代表する方々へのアンケート調査にもとづく『旅行の見通し』の2点の財団刊行物の配布も行う。03年度は、「2004年の旅行動向見通し」の財団報告と、『「スロー・イズ・ビューティフル」な時代がやってきた!』をテーマとしたパネル討論を軸に行われた。

担当者：小林英俊 黒須宏志 久保田美穂子 牧野博明 渡邊智彦

日時：03年12月24日 13:30～17:20

場所：経団連会館 11F 国際会議場(東京・大手町)

主催：(財)日本交通公社

### プログラム

#### 第1部 財団報告

##### 「2004年の旅行動向見通し」

(財)日本交通公社 研究調査部 市場分析グループ (寺崎竜雄 林俊介 塩谷英生)

03年の旅行市場は良かったのか悪かったのか、そして04年はどうのような局面を迎えるのかについて、当財団調査の「観光業界を代表する方に聞く旅行の見通しアンケート」、「全国観光地動向調査」、全国の消費者約2,000人に聞いた旅行意識調査結果などにもとづいて解説を行った。

#### 第2部 パネルディスカッション

##### 『「スロー・イズ・ビューティフル」な時代がやってきた!』

パネラー：辻信一氏 (明治学院大学国際学部 教授)

橋川史宏氏 (紀南振興プロデューサー)

井上弘司氏 (飯田市産業経済部農政課 農政係長)

コーディネーター：小林英俊 ((財)日本交通公社 理事・観光マーケティング部長)

“スロー”という言葉の中には、文字通りの意味である単に“ゆっくり〇〇する”というだけでなく、異なる時間の流れを体験することによる“本来の姿を取り戻す(回復する)”というニュアンスも含まれている。この考え方は、“旅行の本来の姿”と言われている“スロートーリズム”にも当てはまるはずだ。

今後の旅行には+ aの付加価値が求められている。自然に触れあい自然について学ぶ“エコツーリズム”や、温泉を活用し健康増進を図る“ウエルネスツーリズム”などは付加価値を取り込んだツーリズムであり、地域の魅力の1つである“食=スローフード”を味わうことを目的としたツーリズムも同様に付加価値を有するものと捉えることができる。これらには共通して、“滞在=日常とは異なる時間・空間で過ごす”という時間軸があるように感じられる。

今回は、“スロートーリズム”をキーワードとして、スロートーリズムの考え方、スロートーリズムの実現に向けた具体的な取り組み、そのための観光地のあり方等について、多面的な議論を展開している。

### 参加者概要

参加者数218名

(内訳)一般参加136名、招待65名、JTB17名